

編集後記

第九号をお届けします。石井鶴三、北杜夫関連論文など、今号もさまざまなテーマについてご寄稿いただき、本学附属図書館の多様な側面を紹介することができました。執筆者の方々には、厚く御礼申し上げます。

2019年は、本学にとって節目の年であり、開学記念日の6月1日、「信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業」では、全学を挙げてさまざまなイベントが開催されました。大学史資料センターでは、当日のイベントの他、プレイベントも含め、その後も記念事業の一環として企画展などを随時開催しています。

附属図書館では、学術情報・図書館委員会の下に「電子ジャーナル等あり方検討部会」「オープンサイエンス推進部会」「大学史資料センター検討部会」といった3つの部会を設置しています。附属図書館はもとより、本学が抱える喫緊の課題の対応のため設置されたもので、非常に重要な役割を担っています。2020年以降、大きな展開が見込まれることから、2019年は附属図書館にとっても節目の年だったと言えるかもしれません。

事務局構成員に変更があり、校正作業メンバーに丸山知美さん、牛越中美さんが加わりました。なお、私事で恐縮ですが、今年度末で定年退職を迎え、今号で本誌窓口の役割を終了します。3年間のお付き合いでしたが、関係者の皆様には、この場を借りて感謝の意を表します。ありがとうございました。

石坂 憲司